



9月20日、南相馬（萱浜園場）で「菜の花 種まき会」が行われました！

南相馬の「菜の花プロジェクト」を応援してくださるみなさまへ



東日本大震災と福島第一原発事故からまもなく10年になります。
津波と放射能は、一度は私達から未来と希望を奪いました。しかし、私たちにこの地で暮らし続ける勇気とヒントを「菜の花」が教えてくれました。そして、全国からあるいは避難先から駆けつけてくださる皆さまと出会い、試練と喜びを分かち合い、これまで歩んできました。
小さな試験圃場や関東での搾油実験、地元でのボランティア種まき会などから始まり、20 km圏内（旧警戒区域）での営農再開、食用菜種油「油菜ちゃん」のブランド化と販売、避難先から戻り続々と合流する地元農家の仲間たち、2018年には信田沢の地に相双地域独自の搾油施設が稼働しました。

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞 本館5階B
NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

口座番号：普通 1682863

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax: **052-228-6813** (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

* 5年前に電話番号が変わっています。お間違いがないようもう一度ご確認ください。

ホームページ: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

そして、今年はずいぶん浪江や飯舘村の仲間たちも加わり、いよいよこれからが福島県相双地域における市民による人と大地の復興運動が本格的に始まると考えていました。しかし、これまで一段飛ばしで、急な階段を上り続けた私たちにとって、今年は大きな曲がり角に差し掛かっていることも、わかってまいりました。震災から10年を前にして、私たちはいつまでも被災者であり続けるわけにはいきません。

「食の安全」「農地の再生」「資源循環」「地域の再生」を掲げてきた私たち南相馬農地再生協議会と信田沢搾油所ですが、悲しく悔しかったあの日の初心を忘れず、皆さまとこれからも歩み続け、持続可能な活動に移行するためには、より一層踏み込んだ自己啓発をしなければなりません。具体的には、これまで以上に経営体を意識した組織経営を心掛け、地元産「菜種油」のいっそうの品質改善および普及と販売、そしてお客さま目線にたった食品販売者としての営業活動など、私たちが自らの力でやり遂げなければならないことは、まだまだあります。一方、私たちの力のみでは、まだまだ至らぬ点が多々あり、皆さまからの指導、助言を得、共働を通して、新しい次の時代の「相双 菜の花プロジェクト」として再出発する新鮮な気持ちで、本日2020年秋の種まき会の日を迎えたいと思います。

令和2年(2020)9月20日 一般社団法人 南相馬農地再生協議会 一同

南相馬便り

(神野 英樹)

★「種まき会&第2回環境フォーラム」開催

2020年9月20日(日)は、「コロナ禍」に悩まされながら、また、天気予報がすぐれない中、幸いにして雨は降り出すこともなく、絶好の「種まき体験会日和」となった。

コロナに配慮して、参加募集人数は従来の約半分に制限せざるを得ず、昼食も、会場(太田生涯学習センター)内で提供することはできなかったが、それでも「油菜ちゃん」を使って揚げた「カレーパン」などのお弁当を、菅浜園場の畦道などでピクニック気分楽しんでいただくなど、最終的に延べ67名の参加を得て、盛況に開催することができた。

午後からの「環境フォーラム」では、「ソーシャルディスタンス」に配慮して座席を確保し、講師中村真人さんのお話に耳を傾けた。

杉内園場(ビニールハウス)内で、設置が始められた「ミニバイオガスプラント」の見学会も予定通り実施できた。

杉内代表の直近の夢は、このバイオガスプラントで作ったメタンガスを使って、ガス灯を灯すことだ。

★地元の「油菜ちゃん 拡販チーム」が快挙!

南相馬市の学校給食に、「油菜ちゃん(一斗



缶)」の採用が決定した。鹿島区にある「学校給食センター」、原町区の原町第1~4小学校や石神小学校、小高区の小高小学校、そして、各区の中学校を含め、全15ヶ所に総数31缶の「油菜ちゃん(一斗缶)」を初出荷する。

子ども達に、「一番搾りの油菜ちゃん」を味わっていただこうと、急遽、信田沢搾油所は「フル稼働体制」を敷くことになった。

★再生協議会の「事務局長」交代!

私ごとではあるが、再生協の事務局長を退任し、地元の小林岳紀氏にバトンタッチすることになった。通い初めて丸3年間、「名古屋⇄南相馬」を約130回往復したことになる。

「地元の」「地元による」「地元のための」ふるさと再生活動が、より活性化することを祈念している。

ウクライナ情報 (山盛 三千枝)

ポーシェ前号でお伝えしたが、州立小児病院の未熟児セクションで緊急に必要なとされていた「医療保温用マットレス」が、静岡サレジオ小学校の支援金により購入され、州立小児病院に届いた。病院からは感謝状(右)とマットレスを使用している写真(下)が送られてきた。

さて、今年もクリスマスカードキャンペーンの時期がやってきた。新型コロナウイルスの影響で、日本・ウクライナ共に実施できるだろうかと不安だった。何より、国際郵便の受け入れが停止しているとの情報が入ったので、送り届けることができるのか?…不安を持ちながらも、運営委員会では、毎年カードをプレゼントしていた南相馬の保育園や幼稚園の意向を伺い、カードを子ども達にプレゼントできるならば、実施しようということになった。航空便が無理な場合は、ウクライナ到着まで時間がかかるが、船便(約2か月)で送ることにした。…結果、南相馬の保育園・幼稚園は、「カードの受け取り大歓迎」と快諾いただいた。ただし、教室内で直接子ども達に手渡しすることはやめ、後程、園の先生方が子ども達に配ってくださるとの返事を得た。



ホステージ基金のドンチェヴァさんからは、例年ほどの大きな規模にはならないかもしれないが、実施できることは間違いないとの連絡があった。今までずっと実り

日本国 サレジオ小学校 御中

当院の職員一同と、小さな患者たちの両親は、皆さまに敬意を表し、未熟児のケアに用いられます保温マットレスという形でご提供いただいたご支援への感謝を申し上げます。

皆さまがゆるぎないご健康に恵まれ、ご家庭が平穩に過ごされますように。

敬意を込めて

院長代行 スヴェトラナ・ルサク

多い協力をしてきてくれたいくつかの学校と幼稚園に、キャンペーンに参加してもらおうと考えているとのことであった。

日本ウクライナ双方でカードキャンペーンを行うことが確認されたが、問題は郵便事情である。9月25日時点でのドンチェヴァさんからの情報では、「日本からの郵便は、問題なく受け取れるはずです。市の中央郵便局は私にそう保証しました」とある。…が、9月29日名古屋中郵便局に問い合わせたところ、現時点で、ウクライナでは、日本からのエアメールの引き受けは再開されておらず、ウクライナからの郵送物は日本に入ってきているとの事だった。果してカードを送ることができるのか。とにかく、ドンチェヴァさんと情報交換しながら、航空便再開を期待しつつ今年もカードキャンペーンは実施することとなった。

その他、ウクライナからは、事故処理作業支援の実施に入ったと伝えてきた。州立成人病院のチェルノブイリ・セクションと、非常事態局医療センターの医療機器購入。そして11月からは、各基金のメンバーへの直接の支援と、ナロジチ地区病院への支援を予定している。

ありがとう 五代君 (竹内 高明)

今年7月、ウクライナに20年近く在住、「チェルノブイリ救援・中部」の派遣団やスタディ・ツアーの通訳を長きにわたって務めてくれていた、五代裕己（ごだい・ひろき）さんが亡くなりました。44歳でした。電話に出なくなった彼を心配した友人たちが、キエフ市内の彼のアパートを訪れ、警察にドアを開けてもらって、亡くなっていた彼を見つけたのでした。最近胃の不調を訴えていたそうですが、死因は心臓の発作ではとされています。

その翌日、近年、ウクライナやベラルーシでチェルノブイリ事故関連の調査・研究を行う際、彼に毎回通訳を頼み、親しくしていた放射線衛生学者の木村真三さんに、五代君（と以下書かせていただきます）が代表をしていたキエフ剣道連盟の事務局長、ルスラン・プリルィプコさんから緊急の連絡があり、木村さんから私に電話があって、ルスラン君にネット通話で事情を聞いてほしいとのことでした。青天の霹靂でした。

1994年秋からキエフに住んでいた私が、彼に初めて会ったのは2000年12月、その頃日本大使館にあって一般に開放されていた図書室でした。キエフ言語大学でロシア語を学ぶためにキエフに住み始めたばかりの五代君が、私に声をかけてきたのでした。その時から、私が帰国した2013年3月まで、一緒に遊び、通訳の仕事をし、親しくしてもらいました。いつ会っても「竹内さん」と笑顔で懐いてくれました。

彼は当初、日本で働いて貯めたお金がなくなるまでの留学だと言っていましたが、ある大学で日本語を教えるようになり、また日本からの個人輸入で日用品を卸売りするビジネスを始め、人なつこい性格でウクライナ人の友人もすぐに多くなり、ロシア語も急速に上達して、すっかりキエフの街にとけ込んでいきました。やがて希望者に請われて剣道の指導を始め、キエフ剣道連盟を発足させ、2006年から毎年ウクライナ日本大使杯剣道大会も開催するようになりました。その頃からは彼も私も公私ともに忙しく、仕事以外で会う機会が少なくなってしまいました。



たが、ウクライナに長く住む日本人が少ない中で、気安く何でも相談し、他愛ない冗談を言って笑い合える、彼と違って付き合いの悪い人間の私にとっては、かけがえのない友人でした。

最後に会ったのは昨年5月、木村さんが日本に招聘したベラルーシの医師や学者の通訳として彼が日本に来た時でしたが、食事の席でもお互い通訳をしていて、ゆっくり話せるいとまはありませんでした。いずれウクライナでも会って、久し振りにあれこれ雑談ができるだろうと思っていたところへの突然の訃報でした。目覚めたままで悪い夢の中に入り込んだような気分でした。それからネット通話やメールでルスラン君とやりとりをすることになったのですが、五代君に指導を受けていた剣士たちの彼への敬意と厚い感謝に改めて感銘を受けました。指導は厳しいこともあったようですが、剣道と弟子たちへの愛情を皆感じていたのでしょうか。新型コロナウイルスの防疫体制が敷かれたキエフで、ルスラン君たちの尽力により、五代君のご両親を迎えて葬儀が執り行われ、遺骨は実家の鹿児島で、木村さんの立会いの下ご家族のお墓に納められました。

木村さんのお世話で、彼の在職している獨協医科大学でロシア語を教えている私は、彼と一緒に医学部の1年生に一般教養の選択科目の一つとして、チェルノブイリや福島、ハンセン病の話などをしており、木村さんに会うと、いつも五代君の近況が話題になっていたのですが、その「近況」がなくなっていました…。五代君、ありがとう。君の思い出は、これからも多くのウクライナの人たちの胸を温め続けるに違いありません。

チェルノブイリ救援・中部が活動を開始した 1990 年以降、ウクライナと日本の絆を固く結び努力を続けてくれたウラジーミル・Y・キリチャンスキーさんが亡くなって 8 年が過ぎた。

ソ連時代から、チェルノブイリ原発事故の影響が最も大きかったウクライナ ジトーミル州の地方紙の主幹として被災者の救援に力を入れ、日本の私たちの活動を支えてくれた。彼の誕生日の 10 月 8 日にはジトーミルで彼の追悼の会が持たれるという。私も今、彼を思い出す。

はじめて会った「キリちゃん」

私が初めて彼に会ったのは 1993 年 12 月、チェルノブイリ救援・中部発足から 3 年目にウクライナを訪問した時だった。当時の印象では彼は殆ど無口で、机に座って黙々と仕事をする実務家、という印象だった。しかし、初めて現地を訪問する日本の団体を如何にスムーズに迎えるか、救援に伴って起こる様々な問題を如何に解決するか…に、彼は日夜奮闘し苦悶していたかはあとで知った。1990 年 12 月に初めて航空便で送った粉ミルク (2 トン) が途中で紛失した事件は、現地の税関や警察・大使館・KGB 迄巻き込んでやっと回収し解決したが、彼の努力がなければ私たちが国内で初めて呼びかけて集めた大金で購入した粉ミルクは途中で横領され、私たちは国内での信頼も失い活動は続かなかっただろう。救援物資や日本からの訪問に伴う様々な問題の解決に、彼は苦悩しつつも黙々と努力を続けていた。そうした事実を始めて知ったのは彼が 2002 年に書いた「わが心の独白」という長い文章を読んだ時だった。

彼は、救援物資が無事に届きスムーズに配布されるだけでなく、日本の私たちの被災者に対する心を如何に大切にすることに心を砕いていた。そのことを知り胸が熱くなったのを今も覚えている。

彼の活動は次第に広く知られるようになり、ある時、全ウクライナ・ジャーナリスト連盟の委員長にならないか、と打診された。ジャーナリストとしては最高の名誉だったはずである。だが彼はその申し出を固辞した。委員長になれば住まいを首都キエフに移さなければならなくなり、ジトーミ



ルの被災者から遠ざかってしまう、というのがその理由だった。「私は被災者とともに生きる」と彼は言ったそうだ。

喧嘩友達の私たち

一方で、ずけずけと言う率直な物言いも彼の特徴だった。私たちが事故処理作業者の支援やナロジチでの菜の花プロジェクトを提案した時、彼は言った。「あんたら日本人にそんな大それた事が出来るはずないだろう」と。だが、彼はその申し出を邪魔するどころか、誠意をもって実現に努力してくれた。菜の花プロジェクトが動き出し、彼はすっかり心を寄せ協力してくれるようになった。「それは良い」という日本語が彼の口癖だった。

被災者に心を寄せて

言うは易く行うは難し、である。被災者の心をくみ取り、何が求められているか、それが真に被災者の助けになるのか、を常に心しなければならぬ。彼から学ぶことはまだまだあった。彼が生きていれば、私と同じ当年 80 歳、食卓を囲んで話し合いたかった。(2020 年 9 月 29 日 河田)

「なぜ福島の花の種まき会」に参加するのか？

(兵庫県淡路島在住 あわじ菜の花エコプロジェクト代表 岡田 清隆)



2011年3月11日、東日本大震災・大津波・原発メルトダウンの直後の5月、山形県蔵王に有志関係者が集まった。今、被災地の現場へのアクセスもままならない中、何が必要で我々にできることは何なのかを具体的に検討するためであった。

1995年1月17日早朝5時46分、忘れもしない阪神・淡路大震災発生、その震源地が淡路島であった。甚大な被害を受けた震源地へのさまざまなサポート・アクションは、「ボランティア活動元年」として「ボランティア・ビックバーン180日

間の記録」として小冊子にまとめた。私は2012年1月に、世界で初めてエネルギー100%再生可能エネルギーで自立した人口500人のドイツの小さな村ユーンデを仲間と訪れた。ドイツの1月は氷点下の日が多い。この時期を選んだのは、暖を取るための彼らのライフスタイルを学ぶことにより、きっと東北の被災地の復興再生の一助になると考えたからでもあった。

福島への「菜の花の種まき会」への参加は、今年で6回目になる。チェルノブイリ原発の土壌中の残留放射性物質の調査にも参加させていただいた。チェルノブイリ原発メルトダウン後のナロジチ村の菜の花プロジェクトの取組効果が実証され、きっと福島の大地を取り戻す新たなプロジェクトになると確信したからである。2000年「淡路花博ジャパンフローラ2000」として開催された淡路島夢舞台・国際会議場で、「あわじ菜の花エコプロジェクト」として淡路島全域でのミッションを提案し、実践活動20年目を迎える。この間に学んだ多くのノウハウを、是非とも福島復興再生に役立てていただきたく、福島詣でを続けている。必ずやストップ地球温暖化の新ライフスタイル福島バージョンが発信できるに違いない。

「農研機構」中村真人さん講演会 バイオガスについて

(原 富男)

9月20日、南相馬市大田生涯学習センターにおいて、第2回目の「環境フォーラム」が開催された。今季の講演者は「農研機構」の中村真人さんで、私はこの講演を非常に楽しみにしていた。それは最近バイオガスについての新しい情報に触れていなかったのも、新情報が得られるのではと考えてのことだ。

中村さんはバイオガスの仕組みからはじめ、様々なタイプの導入実例をスライドで説明してくれた。またバイオガス装置から出る廃液(消化液)の肥料としての利用状況なども報告された。

私の関心は、これから南相馬市で私達が作りたいと思っている比較的小型のバイオガス情報であった。講演の中で興味を持ったのは、ベトナムのバイオガスの実例だ。その一つは自分で作るコンクリート製の発酵槽。もう一つはコンクリート製を発展させたポリエチレン製と思われる発酵槽である。これは予め工場で成形された製品なので、掘削した穴に設置し、土を懸け戻すだけという簡単なバイオガス装置だ。パワーポイントの画像なので大きさは判らない



＜中村 真人氏＞
国立研究開発法人農業・
食品産業技術総合研究機
構 農村工学研究部門地
域資源工学研究領域地域
ユニット上級研究員

が、10 m³程度と思われた。この発酵槽は安価で設置が簡単なので、ベトナムでの普及に弾みがつくと思われる。

小型バイオガス装置を南相馬市で導入しようとした場合、当面は20 m³程度の発酵槽でスタートすることになる。南相馬市での菜の花プロジェクトは、ナタネから油を搾る所までは来たが、油粕など放射能を含むバイオマスを、「バイオガス装置で分解し、併せて放射性物質を分離回収」するには至っていない。

今後の課題は設置用地と人材である。そして何よりも肝心なことは、メタン菌発酵に興味を持ち、消化液（液肥）を有効に使うことに熱心な人の発掘である。人材さえ見つければバイオガスの導入自体難しくはない。今後、人材発掘に向け取り組みを強めたい。



種まき会・環境フォーラムに参加して

（上田 千津子）

9月20日、連休の中日にもかかわらず70名近い参加者が集まりました。天気予報では雨かもしという不安もありましたが、曇り空で安堵いたしました。門馬市長（代理）や衆議院議員の方などのご挨拶のあと、地元の方からレクチャーを受けいよいよ種まきです。

私の想像では「種まく人」の要領でのん気に構えていましたが、30cmの幅のところに種をまいて靴で踏みしめるということを、延々と繰り返すという具合です。一筋撒くのには大分時間がかかってしまいました。腰は痛くなるし首はだるくなるし、作物を育てるといことは大変な作業であると思い知らされました。（他の畑は機械で撒くのだそうです）全部で8反の畑に1時間ほどで撒き終わりました。ただ撒いている途中、土の中にガラス片やぐちゃぐちゃになった缶詰の空き缶などがあり、今も津波が襲った恐ろしい痕跡が残っていました。2度と起こらないようにと願うばかりです。さて、後は適度な雨が降ってくれば、春に向かって美しい花を咲かせ、私たちのおいしい「油菜ちゃん」をもたらしてくれることでしょう。その後、昼食用に「油菜ちゃん」を使ったカレーパンなど3種のパンや、トマトにきゅうり、サラダなどが配られ、あぜ道や土手などで皆さん思い思いに舌鼓を打ち、話に花が咲きました。

午後からは、太田生涯学習センターに移動して「第2回環境フォーラム」が開催されました。杉内代表などの挨拶のあと「油菜のさと事業」の中間報告を経て、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中村真人さんの講演です。テーマは「食・農・エネルギーの地域自立、自然と環境にやさしい自然循環の地域づくりを目指して」です。バイオプラントの詳しい説明もあり、私たちが描いている「油菜のさと」にお話が合致し、ますます夢が夢で終わらないように地道に事業を進めていければよいと思いました。皆さん、お疲れ様でした。

はじめての「菜の花 種まき会」

（原 弘美）

はじめて、油菜ちゃんの原料のナタネの種まき会に行ってきました。

油菜ちゃんは、いつも家にあって食べたり、油菜ちゃんバ





ームにして肌につけたりとお世話になっています。家では季節の野菜をいっぱい天ぷらにして食べますが、油菜ちゃんで揚げると胸焼けしません。油も空気が入らないようしっかりと容器に入れておけば、何回かつかえて、かなり油が少なくなるまで使えます。

今回、油菜ちゃんで揚げたカレーパンとトンカツを食べました。カレーパンは地元小高のベーカリーで作られたもので、具もパンも味が良し、油っこくなく、しつこさもな

ったです。トンカツは、いつもお世話になっている双葉屋さんの夕食に出ました。肉と衣と油の味が良く合って、かなりのボリュームでしたが、美味しくいただきました。やっぱり良い油は胃にやさしいし、食べた後苦しくなることが無いです。今回、油菜ちゃんを家以外の場所で味わうことができて嬉しかったです。

種まきの会場は、時折海の風が吹いてくる海に近い所でした。近くで土を見てみると、土の塊がたくさんあって石もあって、畑としては大変なところだと思って見ていたら、何回も津波の後、瓦礫を取り除いたそうです。よくみると小さなプラスチックや瓦などが、ところどころにあります。震災の後、瓦礫を取り除きここまでにした人たちに、頭が下がる思いです。

「さあ頑張って種まきしましょう」と思っていると、どんどん人が増えてきてたくさんの方が集まりました。種の蒔き方も良く考えられていて、耕運の土痕の畝の高い所と低いところを「山谷」として係の人の指示に従い、列を確認しながら山の人、谷の人と一列ごとに撒いていくのです。たくさんの方で蒔くには綺麗に揃って蒔けるので良い方法だと思いました。蒔いた所を自分の足で踏んでいきます。種を落とし、足を一列になるように踏みながら進んでいきます。これはかなり集中してやりました。大勢の人と同じことをするというのは、いつもは感じたことのない不思議な力を感じました。終わった時は達成感があって嬉しかったです。

種まきの後の昼食は、双葉屋さんが用意してくれたサラダには油菜ちゃんが使っており、外で食べる油菜ちゃんが体験できて嬉しかったです。メニューはパンが3種類と杉内さん家のトマト・キュウリと、双葉屋さんのサラダです。杉内さんは、油菜ちゃんを作る中心になっている人でお米も作っています。奥さんは野菜を作っているそうで、トマト・キュウリも美味しくて、丁寧に作っているんだなと感じました。そして、農地再生協議会の人達や種まき会を準備した人達の熱意や心遣いが、とても嬉しく感じた種まき会でした。

お土産にキラリボシの油が入っていたので、帰ったらサラダを作ろうと思いました。生野菜に油菜ちゃんと塩コショウ。これは文句なく美味しいです。もう一つ。プレゼントのマスクにはかわいい油菜ちゃんのシールが印刷されていてとても良かったです。



10 月実施予定 中止のお知らせ

(池田 光司)

10 月に予定していた第 20 期空間線量率測定プロジェクトを中止する事としました。

測定対象となっている放射能汚染被災地域のみならず、測定ボランティアとして参加を予定されていたみなさま、測定へのご理解とご支援をいただいているみなさまに、謹んでお詫び申し上げます。

今回中止に至った最大の要因は、地元の方々への十分な説明と話し合いがないまま、実施の準備を進めてしまったことにあります。運営委員会で 10 月の実施日を決めて、測定ボランティア募集チラシを作成して、ポレシエ読者のみなさまにも実施の予定をアナウンスしましたが、それまでに地元の方々に説明をして了解を得ておくという、基本的なことがおろそかにされていました。福島第一原発事故後、毎年春と秋に測定を行ってきて 10 年、20 回目を迎えることもあり、地元の方々には阿吽（あうん）の呼吸でいつも測定にに応じてくれるものという慣れによる思い込みがあり、きちんと踏むべき手順がおろそかになっていたことに気付かないまま話しを進めてしまいました。

地元の方々や運営委員間で協議をして中止と決めた今となって振り返ると、至らぬ点がいくつか見えてきました。前回第 19 期の測定は、新型コロナウィルス感染拡大の状況下で、地元の方々が中心となり 2 か月半の時間をかけ測定作業を実施してくださり、マップを完成させましたが、そのご苦勞に対して十分なお礼と感謝を示したかと言えば、十分とは言い難いものでした。また、今回 20 期の測定を実施するならば、新型コロナウィルス感染リスクのある中でどのようなことに注意しながらどういう形で実施するかを、地元の方々や測定にいつも参加

いただいている方々の意見を聞きながら、運営委員間で十分協議して決める必要がありました。今回の件を通して、支援の在り方をあらためて見直す必要があると反省しています。

なお、測定は今回中止となりましたが、地元の方々も「次年度以降も測定を継続していきたい」という意向を持っておられます。今回の件を生かして、今後どのような形で測定を続けていけば良いかを地元の方々と丁寧に話し合って決めていく予定です。

今までの 19 回にわたる測定の結果から、空間線量率の変化は、放射性セシウムの物理的半減期による減少を主にしたゆるやかな変化となっていて、急な変化はないことが分かってきています。このことが、今回中止とした要因の一つにもなっていますが、次年度以降は年 1 回の測定も視野に入れて検討を進めていきたいと考えています。

変化が小さいから測定しなくても良いかということ、そういうことはなくて、変化しないことを測定データで確認することは、変化した測定データを得るのと同じくらい大切なことです。変化が小さいことをどのくらいの頻度でどのくらいのデータ数で確認していくかの検討が必要となります。また、合わせて 10 年間の測定結果を、いつごろまでに、どのような形にまとめてどのような形で提供していくかも、丁寧に話し合いながら決めていこうと思います。原発事故による放射能汚染が、10 年にわたってどのように変化したかを示す測定結果は、地元の方々だけでなく広く社会にとって必要で大切な記録になると思います。測定に対する引き続きのご理解とご協力を、よろしくお願いします。

【 クリスマスカードキャンペーン 】

～ ウクライナと福島の子どもたちに クリスマスカードを贈ろう ～



毎年この時期からスタートする『クリスマスカードキャンペーン』。コロナの影響もあり、今年はキャンペーンをどのように展開するのか悩ましいところもあるのですが、このような状況にあるからこそ、楽しみにしている子どもたちに笑顔をとどけたいと思います！！

ぜひとも皆様ご協力ください。（詳細は同封したチラシをご覧ください。）

- ① 手作りのクリスマスカードを事務局までお送りください。素材や形は自由ですが、大きさは出来上がりサイズで A4 半分くらいを目安にしてください。折り紙作品なども募集しています。（あとで封筒に入れますので、立体物は不可です。）

なまえや年齢、簡単なメッセージなどを入れていただくのもいいですね！

- ② ウクライナ宛てか福島宛てかのご希望があれば、わかるようにしておいてください。ウクライナ宛ては 11 月 16 日(月)が〆切、福島宛ては 11 月 25 日(水)が〆切です。
- ③ 事務局でまとめて、11 月下旬～12 月初旬にウクライナと福島へ発送する予定です。



【 ミルクキャンペーン 】

～ 1,000 円で助かる命があります ～

会員の皆さまには毎年、ミルクキャンペーンにご協力いただきまして心よりお礼申し上げます。昨年は、日本から 305,000 円をミルクの購入代として送金し、孤児院や小児病院、コロステンとナロジチの地区病院で、粉ミルクやベビーフードが提供されました。これらの支援を受けるのは、主に親権を放棄された赤ちゃんや、貧困家庭に生まれた赤ちゃん、

特殊な栄養添加ミルクを必要とする赤ちゃんです。

どうぞ皆さまの温かいご支援で、ひとりでも多くの赤ちゃんに粉ミルクが届けられるよう、ご協力よろしくお願い申し上げます。（詳細は同封チラシをご覧ください。）

「モンベル/フレンドマーケット」開店しました！

アウトドアショップ「モンベル」は、自然災害に合われた方への支援活動も行っています。有機農法の「油菜ちゃん」が育つ菜の花畑を守っている皆さん達をご紹介。あなたとご家族の健康のために、食用油は純国産なたねオイル「油菜ちゃん」を使いましょう。（神野 美知江）



【フレンドマーケット】
南相馬農地再生協議会

◎ 南相馬農地再生協議会



南相馬の地域の再生、農地の再生を目指して

福島県南相馬（みなみそうま）市は太平洋沿岸の場所に位置し、夏は太平洋からの浜風が心地よく、温暖な気候に恵まれた街です。米どころとしても有名であり農作物の栽培も盛んです。多種多様な野菜や果物が栽培され、甘みの強い農作物が育ちます。沿岸部に位置していることもあり、海産物も豊富。南北のさまざまな魚種が取れる、食材に恵まれた食の宝庫です。

一般社団法人南相馬農地再生協議会は、2011年に発生した東日本大震災からの農地再生とコミュニティ再生を目的として発足しました。土壌の放射性物質を少しでも除去することはできないか、荒れた田畑を有効活用できないかと考え、製造を開始したのが菜種油でした。菜種油の原料となる菜の花は、放射性物質の一つであるセシウムを吸収し、放射能を除去する役割があります。また、放射性セシウムは水に溶ける性質を持っていますが、油に溶けることがないため、搾油された菜種油に混じることはありません。こうした特性があることから、菜の花栽培が農地再生の希望であると考えました。

こだわりの搾油方法で菜種油を製造しています

搾油製法は、みずみずしいハーブ系の青っぽさや柑橘系の爽やかさが味わえる生搾りと、酸化を防ぐために加熱を避けた、低温圧搾にこだわっています。生産農家さんと連携し、大量生産はできなくとも健康に良いものをお届けしたいという思いで、各工程を丁寧に行っています。菜種油は農地ごとに若干風味や香りに違いがあり、繊細な味の違いを楽しむことができます。

酸化防止剤などの添加物を一切使用していないので、純粋な菜種油の味を堪能していただけます。



事務局便り

今年も ECC 地球救済キャンペーンから貴重なご寄付を頂いた。30 年に亘る継続したご寄付である。毎年、猛暑の中、北村事務局長が大阪から東京の支援団体を訪問後、チェル救事務所へ汗びっしょりでお越しになり、寄付金目録を贈呈してくださる。頭が下がる。そして、その折に、チェル救の活動状況をお話させていただいている。今年は、コロナの影響でお目にかかることができず、残念だった。一今まで活動を継続してこられたのも、多くの方々の長きに亘る、また多岐にわたるご支援、ご助力、協力関係があつてのことである。展開している事業のひとつひとつは、自分達だけで実施しているのではない。この事を肝に銘じ、様々な声に耳を傾け、率直で丁寧なコミュニケーションと敬意を忘れずに活動していかなければと思う。(山盛)

お知らせ「楽天市場に新商品」販売中！

楽天市場の「39 ショップ」をご存じでしょうか？ 今やテレビでも CM が流れています。「送料無料」ということは、売り手が送料を負担することです。販売価格を値上げ？ 商品価格を値下げ？ すいぶん考えて「油菜ちゃん」の価格を見直し、送料無料（再生協負担）に踏み切りました。

さらに、新商品（右 2 点）を販売することにしました。あなたにオーガニック、お勧めします。(美)



「ギフト G セット(¥4,500)」と「一斗缶(¥21,600)」
どちらも「税込価格・送料無料」！

編集後記

- ☆先日いきなり奥歯が欠けた。原因はレントゲンにも写らなかった小さなひび。治療後は、2 年間悩まされた原因不明の痛みも解消され、おせんべい食べても安心。歯欠けて地固まる。(佳)
- ☆会議はもちろん勉強会、講演会、そして…呑み会も。半年もすると Zoom に慣れて来ている自分の違和感に気づく。「そういう時だから…」というヘンテコな当たり前を言葉巧みに促される。上手く使いこなせることよりも、人肌を感じる現実社会で人間らしい生活を送りたい。(美)
- ☆「オクトーバー・サプライズ」という言葉がある。4 年に一度実施される「米大統領選挙（今回は 2020 年 11 月 3 日）」の前月（すなわち 10 月）に発生し、選挙結果に多大な影響を与える「驚くべき出来事」という意味であるが、いよいよその 10 月がやってきた。10 月 1 日に東証で発生した「システム障害（全面取引停止）」は、世界各地で発生している「サイバー攻撃」の一部である可能性が高い。また、「トランプ大統領夫妻の新型コロナ陽性（入院）」も、そのサプライズに備えた予防処置なのかも知れない。丸 1 年間続き、今なお終息の見えない「コロナ騒動」の中で、2020 年 2 月には、旧支配体制が支配してきた「国際金融システム」の崩壊が顕在化した。その後、ミネソタ州で発生した黒人殺害事件を利用したデモ（暴動）は、米国の各都市に広がり、ニューヨークの繁華街がゴーストタウン化し、ロサンゼルスは路上生活者で溢れかえるなど、米国はまさに内戦状態（非常事態宣言下）であると言っても過言ではない。「トランプ」vs「バイデン（4 年前はヒラリー）」という大統領選を左右する「サプライズ」は、「旧支配体制の犯罪暴露」そして「大量逮捕」となることを願っている。(J)

〒 456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「**エーブリント**」

TEL・FAX (052) 871-9473